



8月の悪天候の影響で、稲刈りが1週間～10日ほど遅れて始まりました。籾を見ると、黒、黄色、緑と色が3色に分かれています。黒くなっているのは完全に不稔で、緑はこれから熟して黄色に変わるのかと思いきや、中はスカスカでした。思った以上の不作になることが予想されます。



母牛は分娩を終えるとすぐに子牛のもとへ近づき、子牛の体をなめ始めます。生まれたての牛は羊膜や羊水でべっとりとしているので、母牛は何日もかけて子牛の体をピカピカになるまで綺麗になめるのです。私たちがタオルやワラでいくら時間をかけて丁寧に拭いても、母牛には敵いません。



陸上競技場の芝生とサッカー・ラグビーの芝グラウンドで、カラスが突いた跡が大量に発見されました。芝をめくってみると、コガネムシの幼虫と思われる虫が大量に発生していました。10月の中間テスト期間から虫の駆除と芝生の養生を開始します。関係部員の皆さん、しばらくお待ちください。

San Farm Gallery 2017 Vol.9

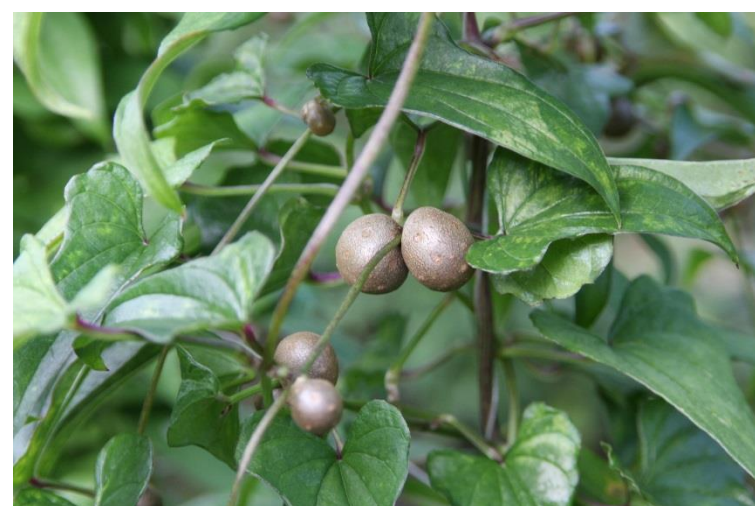
三農の農場に生息する様々な植物や動物は、季節の移り変わりとともに姿や景色を変え、私たちの目を楽しませてくれたり、心をときめかせてくれたりします。San Farm Galleryでは、そんな農場の1コマを紹介します。
三農農場部



今年度の刈り取りが全て終わったので、来年に向け、雑草を防除するため、ブームスプレーヤーで除草剤を散布しました。MDBAという選択性除草剤で、散布しても牧草には影響しません。グラウンドの芝生の管理にも使用されます。



あるクラスの生物活用の授業で作ったカプレーゼというイタリア発祥のサラダです。色鮮やかに仕上がったので、1枚撮らせてもらいました。これに限らず、三農にしか無いもの、その時期にしか無いものが三農にはたくさんあると思います。それらを有効活用する術を覚え、卒業してからの生活に役立てて欲しいと思います。



ナガイモのムカゴです。ムカゴとは、植物の栄養繁殖器官の一つで、これはナガイモの赤ちゃんのようなものです。ムカゴができるまで1年。ムカゴを植えて種芋ができるまで更に1年。種芋を植えてナガイモができるまで更にもう1年。つまり、私達が食べているナガイモの状態になるには、3年の歳月を要していることになります。